

附属やまぐち学園だより

やまぐち学園教育目標：発見し、はぐくみ、かたちにする学びの広場
めざす人間像：よい未来を共に創出す人間

第5号 2021年12月 9日(木)

山口大学教育学部附属幼稚園

〒753-0070 山口市白石三丁目1番2号 TEL 083-933-5960

山口大学教育学部附属山口小学校

〒753-0070 山口市白石三丁目1番1号 TEL 083-933-5950

山口大学教育学部附属山口中学校

〒753-0070 山口市白石一丁目9番1号 TEL 083-922-2824

靴下占い

山口大学教育学部附属山口中学校
教頭 河村 寛美



「わあ、しゅったあ〜。オレ、ピンクだと思ったのにい〜。」

「たしかにい〜。オレは黄色と思ったわあ。」

これは、ある朝の私の靴下の色をめぐる男子生徒の会話です。私の履く黄色やショッキングピンクなどの派手な靴下の色、附中の子どもたちが「靴下占い」をしているのです。(予想が的中すると、その日はラッキーデー)



私が派手な靴下を履くようになったのは2年程前からです。きっかけは、この年になって、やっと自分にはセンスがないと分かったことです。

若い頃は「おしゃれ番長」と呼ばれたこともあり、何を勘違いしたのか自分はセンスがあると思ってお調子に乗っていましたが、五十を過ぎて自分を客観的に見るができるようになりました。するとそれまで好んで着てきた「黒・紺・灰色」の洋服は、若いからこそ映える色であったことに気づき、さらに、暗い色を着ることで周りの雰囲気も暗くしていることにも気づきました。そこで「これではいけない。若さと爽やかさがなければ、せめて少しでも明るい色を取り入れて、周りを明るくしなくては・・・。」と思って始めたのが、明るい色の靴下(健康体操専用)を履くことでした。最初は恥ずかしい以上に、派手な色の靴下を学校に履いていくことに非常に罪悪感がありましたが、履き続けていくと、多くの子どもたちが面白がって、また、気を遣って声を掛けてくれるようになりました。「教頭先生、今日も派手ですね。」「あれ？今日は白なんですか？ショッキングピンクが良かったのに。」という具合です。

また、授業の初めの挨拶の時には、私の顔ではなく足下を見ている子どもも多いです。子どもたちと接する機会が限られている私は、こうした小さなやり取りが大変嬉しく、また、それをきっかけに子どもたちの様子を知ることできます。楽しみにしてくれる子どもたちがいると知ったので、奮発して靴下も新調しました。昨年本校で拾った子猫の「もーちゃん」にちなんだ猫の靴下です。その中でも、「5本指のもーちゃん靴下」を私が履いている日が当てられたら、「大ラッキーデー」です。



そんな中から、「昼休み10分ボランティア」も生まれました。お昼に、靴下のことで声を掛けてくれた1年生男子と3年生女子に、「校舎周りの草取りをしたいんだけど、みんな手伝ってくれるかなあ？」と相談したら、「僕、行きます。」とか、「1年〇組全員行きますよ。待っててください。」などと返事をしてくれました。これが、5月末から始めた「昼休み10分間ボランティア」の始まりです。放送で声を掛けただけなのに、初日は数十人集まってくれて驚きました。これまで三十回以上行って、延べ数百人の子どもたちがボランティアに参加しています。ズボンや手が汚れるのも構わずに水の溜まった溝の草を抜いたり、運んだり一生懸命頑張る子どもたちに心から感動し、また感謝しました。子どもたちの中には、「今日はボランティアありますか？あつたら行きます。」とか、「今日は向こうの溝をやりましょう。」と言ってくれる子どももいます。また、私に用があってボランティアができないときは、「自分たちだけでやるので何をしたら良いですか？」という子どももいました。夏休み最後の日曜日の8月29日にも「五十鈴川清掃ボランティア」が予定され、140名を超える生徒と保護者の皆さんが参加して下さる予定でした。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら延期となりましたが、多くの生徒の皆さんが協力を申し出てくれたのは、このボランティア活動の賜だと感謝しています。本当にありがとうございます。(12月22日(水)に実施することになりました。)

このやりとりや活動からも分かるように、附中の生徒は、素直で思いやりに富み、また「人の役に立つ」ことに喜びを感じる子どもたちです。その子どもたちがさらに成長して、「三校園のめざす人間像」に近づくためには、やはり、学校外での活動の場が必要不可欠です。新型コロナの終息が少しずつ見えてきた今、10月に開催した「学びセミナー」や11月に行われた「附属山口小学生が山口大学で歌う」など、学校外での活躍の場を仕組みたいと思います。そして以前のように、地域の文化祭のお手伝いやあいさつ運動、また地域清掃などで地域の皆様とも再びつながっていきたいと思います。

これからも三校園の子どもたちが「地域・大学・保護者」の皆様と連携できる場づくりを心がけてまいりますので、引き続き皆様のお力添えをどうかよろしくお願いします。

【附属幼稚園】

11月11日に「秋まつり」を開催しました。保護者の方には、事前に景品づくりで全員に協力していただき、当日は、学級理事さんと一部の専門部で3つのコーナー（魚釣り、ボーリング、くじ屋さん）を担当していただきました。年長児クラス星組は、二つのコーナー（探検コースとお店屋さん）を担当し、年下のクラスの友達が楽しめるように相談、工夫しながら進めていきました。当日は、みんなが喜んでくれたことで達成感を感じ、大きな自信となりました。山口大学教育学部の幼児教育コースの大学生もパネルシアターのコーナーで参加し、企画・運営してくれました。保護者、子ども、学生、教員がみんなで協力してつくりあげた楽しい「秋まつり」となりました。



今度は当てるよ！



どれにしようかな！



いらっしやいませ！



成功するまでやっていいよ

【附属山口小学校】

国立山口徳地青少年自然の家にて、4年生が自然体験学習（11月1日）、5年生が1泊2日の宿泊学習（11月1日、2日）を行いました。4年生は焼き板細工とフィールドビンゴ、5年生はTAP（徳地アドベンチャー教育プログラム）や天体観測、野外炊飯等を体験しました。子どもたちは、各活動において、自然や仲間と向き合いながらさまざまな課題解決に取り組みました。

11月26日には、幼小中一貫教育実践研究発表会が行われました。今年度はオンライン形式で、県内はもちろん県外からも多数の方々に参加いただき、附属学校園の研究を発信することができました。



焼き板細工に挑戦！



仲間と挑戦！（TAP）



野外炊飯は、薪割りから！



研究発表会の様子

【附属山口中学校】

10月26日に合唱祭を行いました。昨年度は、コロナ禍で中止となりましたが、今年度は、学年合唱のみに発表時間を短縮し、保護者の方々にも学年ごとに入れ替って鑑賞して頂く形で開催できました。スローガンを「輝響」（こうきょう）とし、一人ひとりのきらめきが合わさることで、歌声はより一層輝くハーモニーとなることをめざしました。声は見えるものではありませんが、会場の中に響き渡る歌声は、時折り何かを映し出すかのように観客の目に見えるものに変ったような気がしました。生徒も含め、鑑賞されたみなさんと大きな感動を共有することができ、伝統をつなぐことができました。



腕を振ってダイナミックな指揮（1年生）



2年生、初めての合唱祭

伝統をつなげてきた3年生